

JAFTMA

JAPAN FISHING TACKLE MANUFACTURERS ASSOCIATION

令和6年1月31日 発行 第93号

（一社）日本釣用品工業会 大村会長年頭所感

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。旧年中は（一社）日本釣用品工業会（日釣工）の活動に格別なご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。本年も皆様と共に、業界の発展に尽くして参ります。何卒、宜しくお願い申し上げます。



一般社団法人
日本釣用品工業会
会長 大村 一仁

志をひとつにして、未来への基盤づくりを

コロナ禍においては、アウトドア需要が高まり釣り業界も活況を呈しておりましたが、行動制限が解かれ社会が本格的にアフターコロナへと転換した2023年は、旅行やその他レジャーへの需要が回復した分、釣り市場は縮小傾向となりました。しかしながら、この反動はある程度予想されたものであり、悲観してばかりもありません。ウィズコロナの約3年間で新たに釣りの楽しさを知った若者やファミリー、数年ぶりに釣り場に戻ってきた人たちがいることは釣り業界にとってはうれしい変化です。また、ますます世界的に加速していくSDGsという潮流は、アウトドア産業ひいては釣り業界にとって追い風となってくれるでしょう。

そんな中、私たち日釣工にできることは、向こう10年、20年と業界が発展していくための基盤をいち早くつくり上げていくことです。新体制となって2期目となる本年は、昨年策定をした日釣工の存在意義とミッションをさらに浸透させることで、釣り業界を担う皆さまと志を共にし、同じゴールを目指して結束を強めていく所存です。

存在意義 「釣り人の安全・安心を第一に、釣りの楽しさを提供できる釣用品事業の推進を図る」

「釣用品事業を通じての社会貢献を図り、釣りと一般社会との親和性を図る」

ミッション 「釣りの社会的地位向上を図る」「釣り人口の健全な拡大を図る」

釣り和社会とのよりよい関係を築く

釣りの社会的地位の向上と釣り人口の健全な拡大に向けては、つり環境ビジョンにもとづくLOVE BLUE事業として、自然環境保全と海洋資源の回復、魚種や釣り場の拡大に努めて参ります。そして目下重要となっているのが、釣りマナーの向上と安全安心な釣り文化の普及です。ビギナーが増えたことで釣り場周辺でのトラブルや事故が増加しており、今まで以上に釣り業界全体がその対応策を問われています。

そこで2023年の日釣工では、釣り施設での『ギョミ袋』配布イベントを実施しメディアでのPR・拡散につなげたほか、日本財団の海洋ごみ対策プロジェクトの一環として全国高校生が参加して開催された『スポGOMI甲子園』への協賛なども行ってまいりました。また、お笑い芸人として幅広い世代にファンを持つダイアンのお二人をマナー大使に任命し、YouTubeやSNS、各種メディアでの発信力を強化しています。本年度はこの流れを止めることなく、個々で取り組む活動はもちろん、他の団体や企業とも積極的に協力することで、釣りマナー向上と安心安全への輪をますます広げて参ります。

この1月には釣りフェスティバルが開催されます。今年は、3年ぶりのリアル開催となった昨年度から出展企業・団体がさらに増え、史上最多の214社。今までにない規模感と盛り上がりのもと、釣りの魅力を発信していきます。来場されたお客様には、釣り自体の楽しさもさることながら、他のアウトドアレジャー、グルメ、ゲームやアートなど様々な角度から広がっていく釣りの楽しさ、奥深さを体験してもらえるこの上ない機会となります。

パンデミックの脅威や地政学的リスクの高まりを受けて、世界がますます平和で安全・安心な社会を求めている中、釣りというレジャーが様々な価値観を共有する多様性社会のためにできることはまだまだあると思います。日釣工は、初心者の方、子どもやお年寄り、障がいを抱えた方、さらには様々な地域社会にとっても、釣りを通じて明るく健康的なライフスタイルを提供できるよう皆様と共に一致団結して取り組んで参ります。

CONTENTS



| | |
|-------------------|-----|
| 大村会長 新年のご挨拶 | P.1 |
| HPリニューアル | P.2 |
| 釣りフェスティバル2024開催速報 | P.3 |
| ロイヤルアングラ賞 | P.5 |
| 各委員会報告 | P.6 |
| 第45回理事会報告 | P.8 |
| 事務局だより | P.8 |

目次

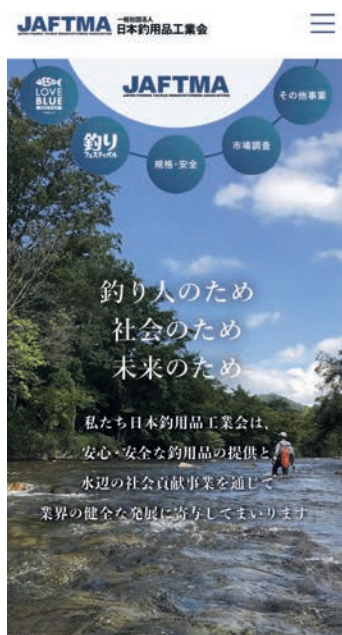
公式ホームページリニューアルのお知らせ

2024年1月9日、広報拡大WGは、当工業会公式ホームページをリニューアルさせました。リニューアルのポイントは、①当工業会の活動理念を明確にすること、②業界団体の活動をわかりやすく情報提供すること、③スマートフォンに表示を対応させることです。当工業会が発信するメッセージを明確にお伝えすることを主眼に改定作業に取り組んでまいりました。ぜひ当工業会のホームページにご注目ください。

リニューアルのポイント

- ① 当工業会の活動理念を明確にすること
～釣り人のため、社会のため、未来のため～ のスローガンをトップページに表示しています。
- ② 業界団体の活動をわかりやすく情報提供すること
当工業会が取り組む事業について、コンテンツごとにシンプルかつ見やすいレイアウトにしました。
- ③ スマートフォンに表示を対応
スマートフォンやタブレットに対応した画面で、当工業会の活動等をご覧いただけるようになりました。

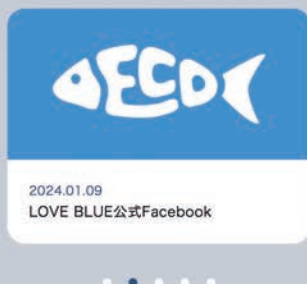
こちらからご覧いただけます
ホームページアドレス
<https://www.jaftma.or.jp/>



2024.01.09

このたび、石川県能登地方で発生した、令和6年能登半島地震でお亡くなりになられた方々には、心よりご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

PICKUP



2024.01.09
LOVE BLUE公式Facebook



PICKUP

24.01.09
イ
イ
史
比
一
次

釣りフェスティバル

2024.01.09
ボート免許更新・失効講習 in 釣りフェスティバル2024

NEWS

2024.01.09 経済産業省 はじめての公益通報者保護法

2024.01.09 経済産業省 労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針について

2024.01.09 釣りフェスティバル2024 開催概要のご案内

2024.01.09 ロイヤルアングラー2024のお知らせ

2023.10.31 JAFTMA NEWS 第92号を掲載いたしました。

TOPICS



LINK



釣りフェスティバル

Fishing Fest. 2024 in Yokohama

1月19日（金）～21日（日）の3日間、釣りフェスティバル2024がパシフィコ横浜で行われました。完全リアル開催が復活した今回のショーは、イベントや見所が盛りだくさん。目玉となる釣種別スタジアムには、7釣種129社が集結し、熱い釣りファンに向けた見応えあるコーナー展開となりました。また、釣りフェスティバル限定品は、各ブースでの販売が解禁となり、多くのお客様で賑わいました。他には、巨大プールを使ったマス釣りが4年ぶりに開催され、子供たちが魚の引きに歓声をあげました。「釣りの学校」や「にぎわいマルシェ」、「釣りめしスタジアム」など、初心者からファミリーまで楽しめるコーナーや恒例のプロアングラーによるトークショーやキャストイングデモンストレーションなど、来場されたお客様は時間を忘れて釣りフェスティバルを楽しまれています。

3日間の来場者は、35,848名 昨年比148.5%となりました。

次回は、2025年1月17日（金）～19日（日）パシフィコ横浜での開催となります。



会場正面入り口



釣種別スタジアム全景



4年ぶりに復活したマス釣り体験



プロアングラーによるトークショー
(左から、菊元俊文氏、小野俊郎氏、奥村和正氏)



釣りの学校



釣りめしスタジアム

クールアングラズ・アワード2024 受賞者は、中尾明慶さん



広く釣りファンの拡大に貢献した著名人を対象に、Sports Fishingを愛し、Sports Fishingの魅力さをさらに広める著名性をもち、さらにはSports Fishingの魅力さを新しい時代感覚の中で表現されている方を、「クール・アングラー」（カッコいい釣り人の意味）として表彰し、讃え、多くの皆様にご紹介しようという企画です。

中尾さんは、芸能人屈指の釣り好きで知られ、木村拓哉さんから釣りを教わったことをきっかけに、釣りにハマりました。それ以来、忙しい仕事の合間を縫って、シーバスやヒラメ釣り、溪流釣りなど、様々な釣りに挑戦しています。

中尾さんの釣りの様子は、インスタグラム（フォロワー数120万人）やYouTube（チャンネル登録者数74万人）で発信されており、多くのファンから支持されています。

第15代アングラズアイドルは金高由佳（かねたか ゆか）さん

金高由佳（かねたか ゆか）さんは、会社員でありながら年間釣行60日を超え、釣りを始めて5年で既に様々な釣りに挑戦し、そのことを楽しく紹介してくれました。その強い情熱と持ち前の明るさに触れ、釣りの魅力を世の中に広く発信する象徴として相応しい存在と考え、第15代アングラズアイドルに選出いたしました。

これから1年間、アングラズアイドルの活動を通して、釣りのイメージアップ、釣りの楽しさ・親しみやすさを象徴し、さわやかで新しい釣りファンの増加、かつ業界のイメージアップに貢献していただきます。会員企業の皆様の積極的な広報活動へのご協力を何卒よろしくお願いいたします。



「ロイヤルアングラ賞 2024」受賞者

(一社)日本釣用品工業会では、2008年度から経済・文化・芸能・スポーツ等の各界でご活躍されている方々で、釣りに対して造詣が深く、趣味として愛好されている方々や、釣り及び釣り文化の発展に寄与されている方々の中から毎年選出させていただき、感謝の気持ちを込めて「ロイヤルアングラ賞」として表彰させていただいております。

2024年はミュージシャンの「宮沢和史」氏を選出し、表彰させていただきます。

尚、授賞式は、釣りフェスティバル2024のメインステージにて、執り行われました。

宮沢和史氏 プロフィール

1966年山梨県甲府市生まれ。

1989年にTHE BOOMのボーカリストとしてデビュー。これまでにTHE BOOMとしてCDを14枚、ソロでは6枚、GANGA ZUMBAとしては2枚リリースしている。

2014年THE BOOM解散後、しばらく充電期間を持ち、2018年より歌手活動を再開。

2021年コロナ禍に制作したニューアルバム『次世界』をリリース。

昨年2022年は代表曲「島唄」を発表して30年目、そして沖縄日本復帰50年にあたり、沖縄・日本本土で精力的に音楽活動を展開した。

現在、琉球古典音楽奏者達との共演である『島唄～琉奏』を配信中。

作家としては、中孝介、大城クラウディア、岡田准一、喜納昌吉、Kinki Kids、坂本龍一、島袋寛子、ダイヤモンド、夏川りみ、平原綾香、MISIA、矢野顕子、など数多くのアーティストに楽曲や歌詞を提供。

現在は、沖縄芸術大学で非常勤講師を務める。

小学生時代より釣りを始め、淡水をメインに釣りを楽しみ、現在はフライフィッシングに没頭している。

宮沢和史氏 オフィシャル・サイト <http://www.miyazawa-kazufumi.jp/>



釣りを始めたきっかけ、釣りに関わるエピソード

小学校低学年の時は、体が弱くどちらかというと消極的で、学校へ通うのが億劫な少年でした。そんな私を近所の釣り好きな同級生が釣りに誘ってくれたことから、自然と交わることで、身体を活発に動かすことの楽しさを覚え、徐々に積極的な人間になっていきました。私の人生に大きな影響を与えてくれた彼には大変感謝しています。

学校を卒業してからは会う事はなくなりましたが、20数年後に、偶然、川でばったり会い、彼の釣りを見ることができました。その腕の良さは、目を見張るほどで、何とも言えない嬉しさがこみ上げてきました。

また、父親が溪流釣り師であったため中学生の時には遠征にも連れて行ってもらいました。

好きな釣り

海のない山梨県で生まれ育ち、釣りを覚えたので、基本は淡水魚、特にサケ科の魚を対象に釣りを楽んでいます。子供の頃に山梨に生息する鮎以外の淡水魚はほとんど手を出しましたが、現在はフライフィッシングに専念しています。

最近、海のフライフィッシングを体験し、その奥深い魅力を知ることができました。

釣りの魅力は

釣りの魅力は、何と言っても「社会活動から完全に切り離され、大自然と一体となったような気分を味わえる点」だと思います。全てを忘れ、自然と向き合い、ひたすら魚信を待つ時間は、最高に幸せなひとときです。

また、釣り当日を迎える前に、様々なことを調べ、準備をする連続した時間の中で、今まで知らなかったことや気づいていなかったことが、次々に出てきたりして、釣りを予定していなければ出会わなかったであろう多くのことを学べる点も魅力的だと思っています。

稀に「魚の殺生は、環境破壊ではないのか？」というご意見をいただくことがありますが、川に立ち入ることで、川を取り巻く環境の変化を体感し、時には警鐘を鳴らすことができるので、釣りは通常ではなかなか体験することのできない独特な立ち位置にあると思っています。

なにより、「宝石のように美しい魚たち」の姿を見たときの心の昂ぶりは、何度経験しても冷めることはなく、また会いに行きたいと思っています。



LOVE BLUE委員会からのお知らせ

釣りフェスティバル2024 in Yokohama

2024年1月19日（金）～21日（日）の3日間開催されました、釣りフェスティバル2024では、釣り人の皆様へ感謝を伝え、マナーの普及啓発の展示を行いました。



LOVE BLUEマナー広報

釣りフェスティバル2024 in Yokohamaの初日1月19日（金）13：00～、メインステージにおきまして、今年度の釣りマナー向上大使・お笑いコンビ「ダイアン・津田篤宏さん、ユースケさん」が登場し「釣りマナー川柳発表会」が開催されました。釣りマナー川柳は、LOVE BLUEホームページ内「釣りマナー川柳特設ページ」より募集を行い、ジャンルを問わず数多くのメディアを通じた告知により、6,375件と大変多くの皆様よりご応募いただきました。発表当日のメインステージには、地上波を始めとした多数のメディアにご取材いただき、結果、地上波情報番組2件、WEBメディア77件、その他、釣りメディア等、多数のメディアでも取り上げられ、釣り界が取組むマナー啓蒙をご紹介いただきました。これからも「LOVE BLUE事業」を通じて、持続可能な釣り環境を構築できるよう取り組み、マナーを守って釣りをより楽しんでいただくために、釣りマナー啓発活動を進めてまいります。



また、釣りフェスティバル開催期間である1月19日（金）～20日（土）の2日間、ご来場のおお客様の待機列や会場内にて、マグロやアジのお面をあしらった「未来から来た釣り人」により、ゴミ袋ならぬ「ギョミ袋」を配布し、釣り人の皆様へ直接、マナー啓発を訴求しました。2日間での配布個数は合計5,130個（19日：3,160個・20日：1,970個）となり、早朝よりご入場口にお並びいただいていたお客様に対し、楽しく釣りマナーをお伝えするとともに良い機会となりました。配布したお客様の中には「未来から来た釣り人」と一緒に写真撮影をしたり、ご自身のSNSへご投稿いただく等、大変注目度の高い取組みとなりました。

LOVE BLUE プロダイバーによる水中クリーンアップ活動

プロダイバーによる水中クリーンアップ活動は、（10月から12月）では2県で27日間実施（2023年度累計：1道21県131日実施）

2023年度も社会情勢などを見極めながら、引き続き、安全作業を最優先に、ご関係の皆様と連携しながら実施して参ります。

10月～12月までの実績

| 期 間 | 実施日数 | 実 施 場 所 |
|-------------|------|---------------|
| 9/30～10/3 | 4日間 | 千葉県南房総市 和田漁港 |
| 10/7～10/11 | 5日間 | 滋賀県高島市 北船木漁港 |
| 10/13～10/17 | 5日間 | 滋賀県高島市 新堀舟溜 |
| 10/19～10/23 | 5日間 | 滋賀県高島市 堀川舟溜 |
| 10/25～10/28 | 4日間 | 滋賀県近江八幡市 牧舟溜 |
| 10/30～11/2 | 4日間 | 滋賀県東近江市 能登川漁港 |

LOVE BLUE専門機関と連携した放流事業

専門機関と連携した放流事業では今年度も引き続き、釣り人の皆様に喜んで頂ける魚種を放流しております。

今回の放流作業は、にじいろ保育園みなとみらいの園児の皆様にお手伝い頂きました。

| 都道府県 | 魚 種 | 放流尾数 | 放 流 場 所 | 放流日 |
|------|-----|--------|---------------------------|-------|
| 神奈川県 | カサゴ | 5,000尾 | パシフィック横浜 潮入りの池 大黒海づり施設 | 1月19日 |



水産庁後援 つり環境ビジョンコンセプトに基づくLOVE BLUE事業 内水面釣り場拡大事業（ワカサギ）

本事業の2022年度採択団体・長野県下伊那漁業協同組合の管轄水域である岩倉ダム（売木村）において、2024年1月1日よりワカサギ漁業免許が交付され、長野県南信州に新たなワカサギ釣り場が誕生しました！今春には、昨年試験放流され成長したワカサギが産卵遡上する姿も確認されており、昨年12月の同組合による試し釣りでは、立派に成長したワカサギ成魚が釣り上げられ、今後は、同漁協を中心として、地元自治体やダム管理者と連携しながら、冬のレジャーの1つとして、ワカサギ釣り場を盛り上げる施策を進めていただけます。是非、ご注目ください。



地球環境基金 企業協働プロジェクト LOVE BLUE助成

独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金と連携したLOVE BLUE助成では、本事業で採択された水辺の環境保全を目的に活動する15団体（2015年度助成開始以来累計39団体）が、各地で活発に活動されています。その中で、気仙沼本吉サーフィングクラブ・（一社）日本デフビーチバレーボール協会・NPO神戸海さくら・NPO大阪海さくらの皆様に1/19（金）～21（日）の3日間開催されました、釣りフェスティバル2024のメインステージにて活動報告を行って頂きました。各団体からは「LOVE BLUE助成を受けた事で、活動の幅が広がりました。」や「本日来場されている皆様のお陰で活動が出来ます。」と温かいお言葉を頂きました。

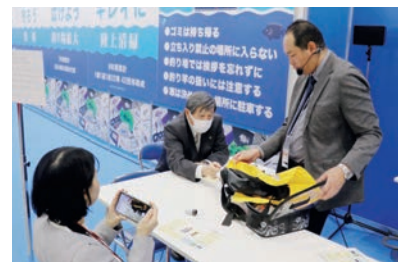
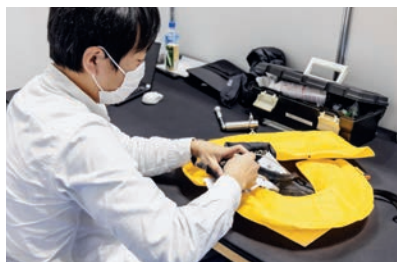
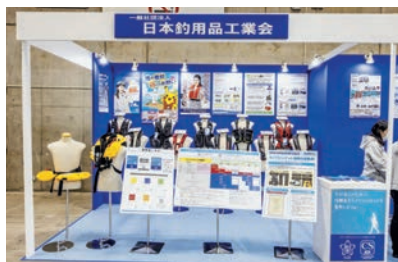


規格・安全委員会からのお知らせ

ライフジャケット安全・啓発ワーキンググループ

規格・安全委員会LJWG（友繁淳史リーダー）では、ライフジャケット着用の啓蒙から点検の重要性を伝えるにあたり、1/19（金）～21（日）の3日間で開催された釣りフェスティバル2024にて、ライフジャケットの関係団体で合同ブース出展や膨脹式ライフジャケットの無償点検・自主点検講習会・メインステージでの発表を行い着用の啓蒙や点検の重要性を伝える活動を行って参りました。

引続き、普及啓発に努めて参ります。



広報・組織委員会からのお知らせ

組織強化WG

組織強化WGでは、「第2回 釣用品の国内需要動向調査報告書に関するセミナー ～業界外から見た釣り業界とは～」を開催致します。二部構成になっており、一部では釣用品の国内需要動向調査報告書について、二部ではパネルディスカッションで業界外から見た釣産業の魅力と課題についてとなります。

開催日時：3月25日(月) 14:00~16:30

形式：会場参加 又は オンライン参加

会場：AP東京八重洲 7階Sルーム 定員30名(先着順)

お申込み締め切り：3月15日(金) 15:00締め切り(別添QRよりお申込み下さい。)



会員向け初回無料法律相談の実施

会員の皆様へ、初回無料にて法律相談をご利用頂けるサービスのご提供を行っております。初回無料法律相談の詳細は、別添資料をご覧ください。

第45回理事会開催報告

去る、令和5年11月29日(水)に名鉄グランドホテルにて第45回理事会が開催されましたので、概要を報告致します。

第1号議案 委員会活動報告及び協議

- (1) JAF実行委員会
- (2) LOVE BLUE委員会
- (3) 規格・安全委員会
- (4) 市場調査委員会
- (5) 広報・組織委員会

- ① 広報拡大WG
- ② 組織強化WG

第2号議案 プロジェクト活動報告及び協議

- (1) 情報収集分析プロジェクト
- (2) 海外戦略プロジェクト

第3号議案 令和5年度中間決算監査報告に関する件

第4号議案 会員代表者変更及び入・退会会員に関する件

- (1) 入会申込に関する件

第5号議案 (一社)日本釣用品工業会名義使用許諾に関する件

第6号議案 その他報告承認事項に関する件

- (1) 令和6年度(2024年度)会議日程(案)に関する件
- (2) 電子帳簿保存法に関わる事務処理規定に関する件

全ての議案が承認されました。詳細は議事録にてご確認をお願いします。

会員情報

〈新規会員〉

株式会社グラスルーツ

代表取締役 日置 典重

住所：〒314-0145

茨城県神栖市平泉東2-40-43

(東京営業本部) TEL：03-6260-7822

FAX：03-6260-7611

〈退会会員〉

有限会社マルエム

代表取締役 松村 誠一



事務局だより

◆本年もどうぞよろしくお願い致します。事務局一同、当工業会の各事業の推進と活性化を図ってまいります。引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

◆「第27回釣用品の国内需要動向調査報告書」を2月1日に発刊いたします。業界動向の把握と将来への戦略立案にご活用いただけますと幸いです。調査報告書作成にご協力いただいた、会員企業の皆様、製造・流通関連の皆様、業界関連の皆様、そして市場調査委員会の皆様には改めまして御礼申し上げます。

JAFTMA
JAPAN FISHING TACKLE MANUFACTURERS ASSOCIATION

一般社団法人

日本釣用品工業会

〒104-0032東京都中央区八丁堀2-22-8日本フィッシング会館5F

TEL 03 (3555) 0101 (代表) FAX 03 (5542) 2929 <https://www.jaftma.or.jp/>



各社ハルパ配合率70%再生紙を使用

